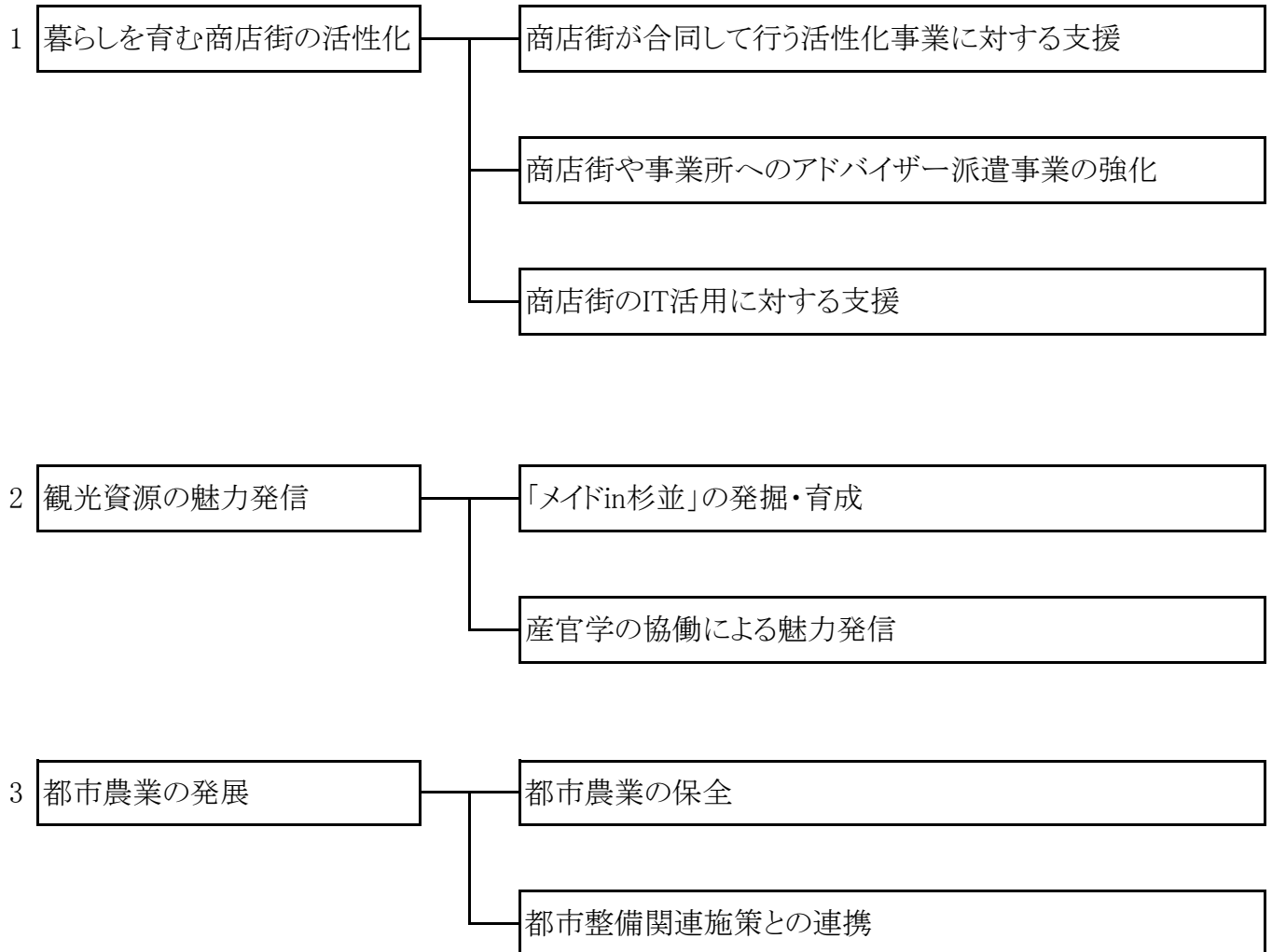


## 杉並区における産業振興施策の今後の主な課題



# 杉並区における産業振興施策の今後の主な課題

## 1. 暮らしを育む商店街の活性化

<来街者の増加 → 商店街の活性化 → 個店の収入増加 といった好循環の流れをいかにつくるか>

### ①連合商店街に対する支援

来街者の増加を図り、商店街の活性化を図っていくためには、個々の商店街支援だけではなく、近隣の商店街が連携、協力して地域の強みをアピールしていく必要がある。

J R各駅や私鉄沿線各駅周辺の複数の商店街などが連携して行う、地域特性や特色を生かした商品開発、集客力の高い魅力的な個店の誘致、イベント実施などを支援していく。

### ②アドバイザー派遣事業の強化

これまで、希望する商店街や事業所に対して振興対策や経営改善を指導・助言するアドバイザーを派遣しているところであるが、商店街派遣は年平均8件、事業所派遣は年平均10件程度と少なく、また個店の後継者不足は個店経営者にとっては引き続き大きな課題である。

今後は、単発的な派遣ではなく継続的にアドバイザーを派遣し、社会経済環境の変化に対応した振興策や個性をいかして競争力や創造力を高めていくアドバイスへとこの事業を強化していくことが必要である。

### ③商店街のIT活用支援

近年の技術革新に伴って、電子マネー、携帯おさいふ、ポイントシステムなど様々なITツールの認知度や保有率が高まり、区民に活用されている。

商店街振興策のツールとして、導入を区民とともに検討していく必要がある。

## 2. 観光資源の魅力発信

### ①「メイド in 杉並」の発掘・育成

自然、文化、歴史、イベントなど杉並区には様々な観光資源があるが、今後、継続的に杉並の魅力を発信していくためには、新しい資源の発掘、育成が不可欠である。

地域特有の資源を活用した事業、地域の歴史に根ざした事業など「すぎなみらしさ」を体現する事業・商店・イベントなどを発掘し、あるいは起業を支援し、すぎなみのブランド力を高めて来街者を増やしていく必要がある。

### ②民間事業との協働による魅力発信

観光ルートや観光マップについては、各鉄道事業者（西武鉄道、東京メトロなど）が個々にPRを行っているとともに、杉並区においても、「杉並区史跡散歩地図」「科学と自然の散歩みち」「すぎなみ景観ある区マップ」「西荻ぶらり」を各所管がPRするなど分散化されていて、来街者にとってわかりにくいものとなっている。

今後は、民間事業者や区内大学とも協力して杉並区全体の観光資源を概括的にまとめ、わかりやすく発信していく必要がある。

## 3. 都市農業の発展

### ①都市農業の保全

### ②都市整備関連施策との連携

区内の農地面積はこの20年間で約4割減少し、農家戸数も半減している。

都市農業は、新鮮で安全な農産物の供給、身近な農業体験、災害時におけるオープンスペース、緑地空間など住宅地においても多面的な役割を果たしている。

今後、農地は「住宅都市に不可欠な環境・基盤」として位置づけ、都市整備施策とともに連携して、長期的な農地保全施策を進めていく必要がある。